

がけ地の土地所有者様へ

～土砂災害に備えていただくために～
レッドゾーンの基礎調査結果〔区域図(案)〕を公表しました。

○県では、土砂災害防止法に基づく土砂災害“特別”警戒区域（通称：レッドゾーン）の指定に向けた調査を実施し、伊勢原市の基礎調査結果を令和2年1月31日に公表しました。

※土砂災害防止法については、同封のパンフレットをご覧ください。

○基礎調査結果の公表後、皆さまへ調査結果を直接説明する場として、「住民説明会」を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が未だ収束していない状況です。

このため、今回、説明会に代わり、基礎調査結果に関する資料を郵送にてお知らせさせていただくこととしました。

※このお知らせは、レッドゾーン及びその周辺に土地を所有していると想定される方にお送りしています。

＜基礎調査結果〔区域図(案)〕の閲覧等の方法＞

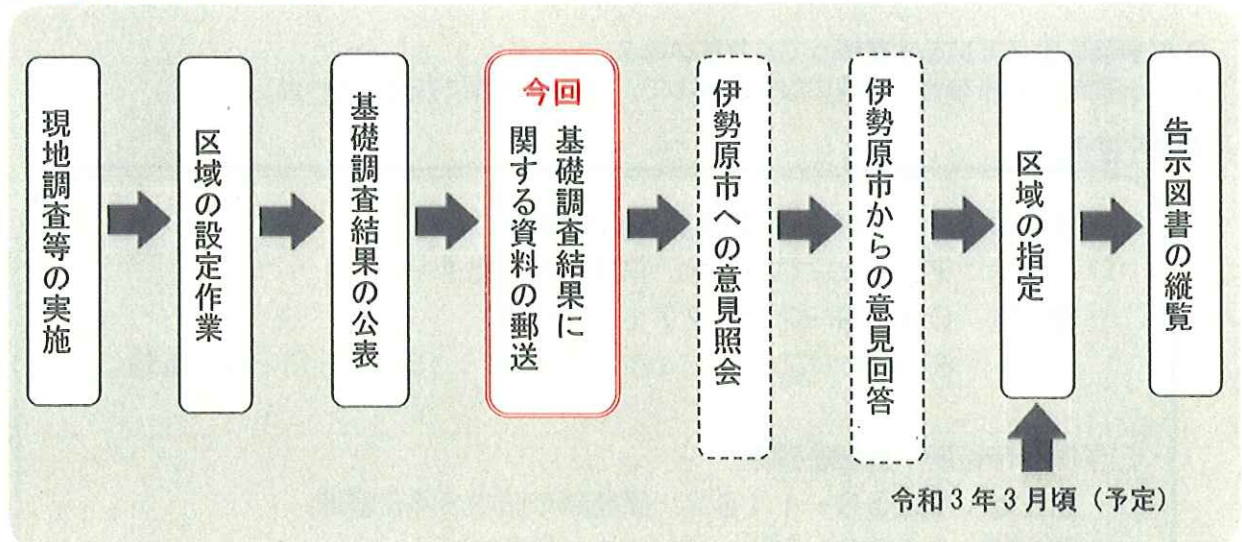
同封の「各地区ごとの図面」をご覧ください。

なお、拡大した図面は、神奈川県のホームページ【神奈川県土砂災害情報ポータル】でご覧いただくことができます。同封の「ウェブサイトによる公表した土砂災害警戒区域等の検索方法」をご参照ください。

また、平塚土木事務所（河川砂防第二課）、県砂防海岸課、伊勢原市役所（危機管理課）、及び各地区公民館（中央、伊勢原南、大山、高部屋、比々多、成瀬、大田）でも、閲覧することができます。

※各地区公民館では、区域が指定されるまで、〔区域図(案)〕を閲覧できます。

＜区域指定までの流れ＞



※裏面に「よくある問合せ」、「問合せ先」を掲載しています。

裏面あり

◎よくある問合せ

Q 1.土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域の指定が無ければ安全なの？

A 1.土砂災害警戒区域等は、土砂災害防止法に基づき、一定の要件（がけの傾斜30度以上や高さ5m以上）を満たす区域を指定するものです。したがって、土砂災害警戒区域等に指定されていないことをもって、土砂災害の危険性が全くないとは言えません。

Q 2.土砂災害特別警戒区域に居住している場合は、どうすればよい？

A 2.土砂災害特別警戒区域に居住されている場合は、そのまま居住することが可能です。ただし、土砂災害特別警戒区域に指定されたあと、建替えや増改築等を行う場合は、建築物の構造規制に基づく建築確認を受ける必要があります。また、土砂災害警戒情報が発表された場合には早めの避難をお願いします。

Q 3.土砂災害特別警戒区域に指定されたら、行政がなにか対策をとってくれるの？

A 3.土砂災害防止法の目的は、ソフト対策を推進しようとするものです。土砂災害特別警戒区域に指定されると、一定の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造が規制されます。
ただし、急傾斜地が自然崖であり、がけの高さや保全人家等一定の条件を満たせば、急傾斜地崩壊危険区域（急傾斜地法）に指定して、県による防災工事が可能となります。個別に相談いただければ、現地確認等を行います。

Q 4.区域指定に反対すれば、指定は行わないの？

A 4.土砂災害防止法では、区域指定の要件に地権者や占有者等の同意を必要とはしておりません。警戒避難体制の整備や無秩序な開発を抑制するなど指定前よりも、土砂災害に対して安全性を高めるための指定ですので、ご理解ください。

Q 5.土砂災害警戒区域等に指定された場合、資産価値の低下に対する補償はあるの？

A 5.土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定は、その土地が本来持っている性質（危険性）を明確にするもので、指定に対する経済的な補償はありません。

Q 6.建築物の建替えや増改築の構造規制とは？

A 6.自宅の建替えや増改築等をするとき、建物への直接的な影響を小さくする擁壁や建物自体の構造強化などが、皆様のご負担で必要になります。

◎土砂災害特別警戒区域関係以外のよくある問合せ

Q 7.斜面上部、斜面内、斜面下部にそれぞれ別の地権者がいて、斜面上部が崩れて斜面下部に被害があった時、責任の所在はどうなるの？

A 7.原則的には、崩れた斜面の所有者に、管理責任が生じます。

Q 8.斜面に生えている木を切ってくれないの？

A 8.斜面の土地所有者の管理になりますので、土地所有者にお問い合わせください。

<問合せ先>

○神奈川県平塚土木事務所 工務部 河川砂防第二課

所在地：〒254-0073 平塚市西八幡1-3-1

電話：0463-22-2711（代表）

8:30~12:00 13:00~17:15（土・日・祝日を除く）

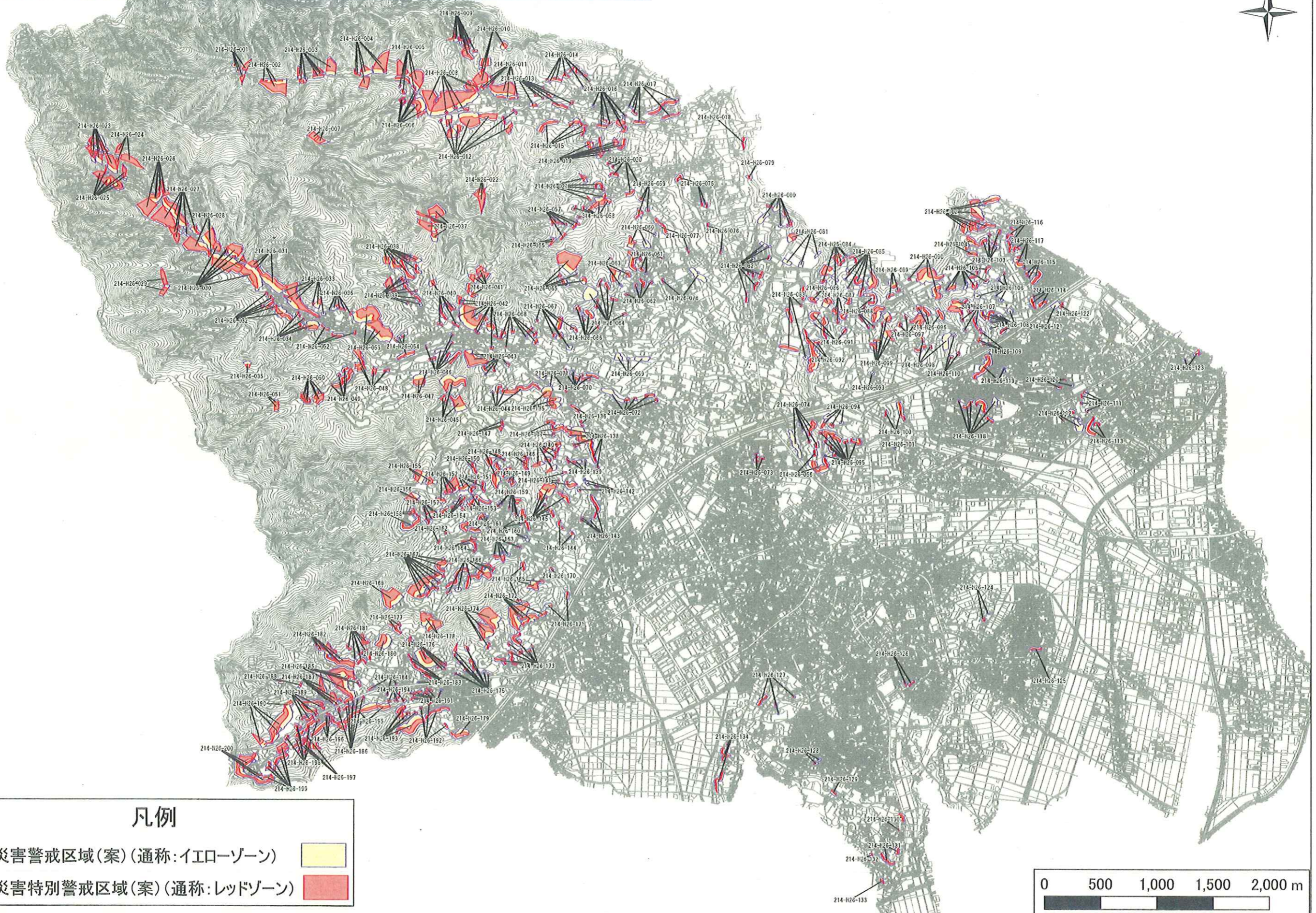
○伊勢原市役所 危機管理課

所在地：〒259-1188 伊勢原市田中348番地

電話：0463-94-4711（代表）

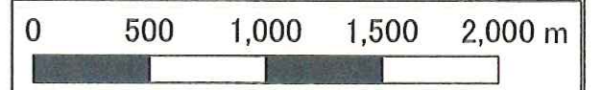
8:30~12:00 13:00~17:15（土・日・祝日を除く）

伊勢原市 基礎調査結果 区域図(案) 土砂災害警戒区域等



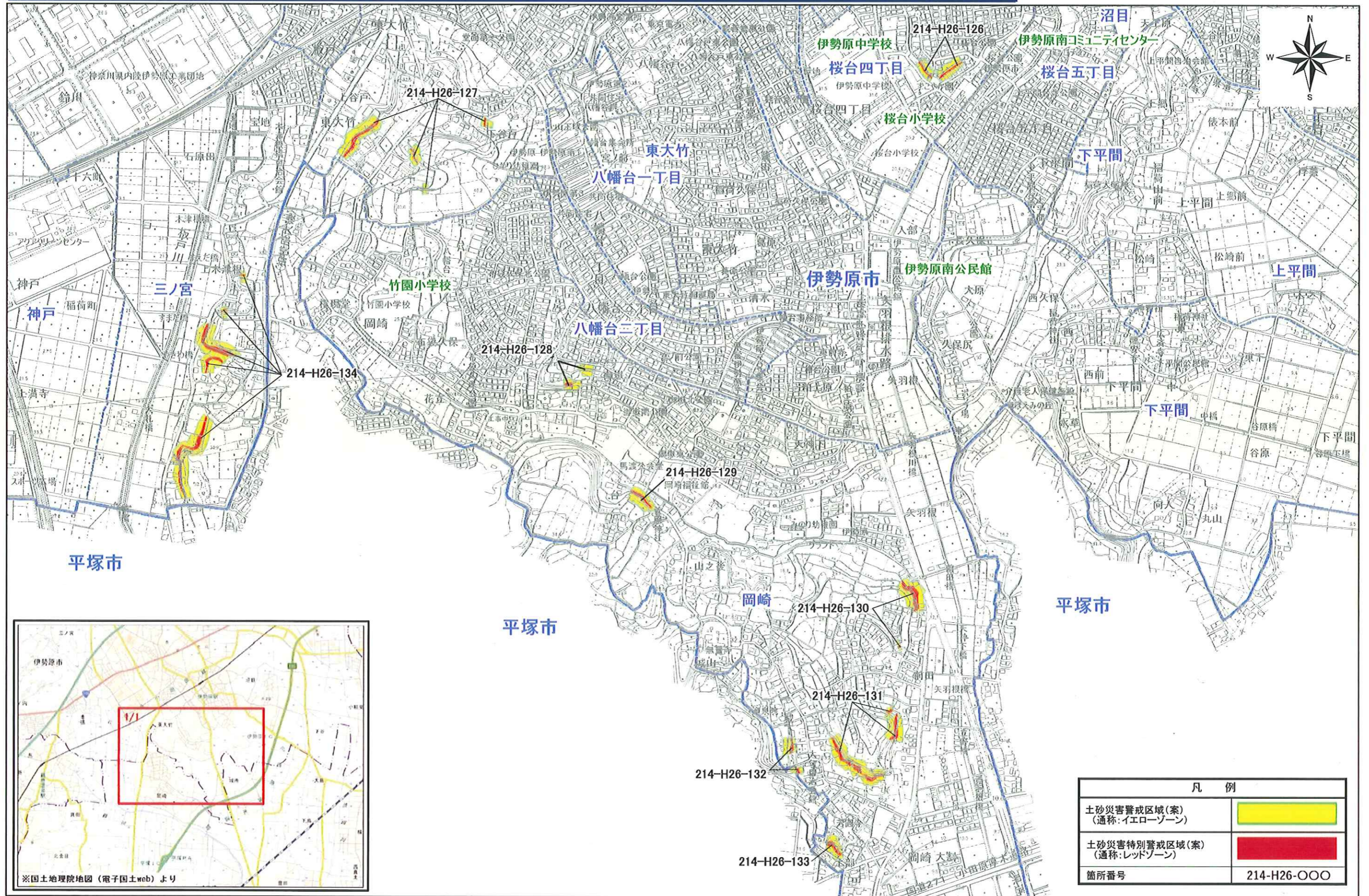
凡例

- 土砂災害警戒区域(案)(通称:イエローゾーン)
- 土砂災害特別警戒区域(案)(通称:レッドゾーン)



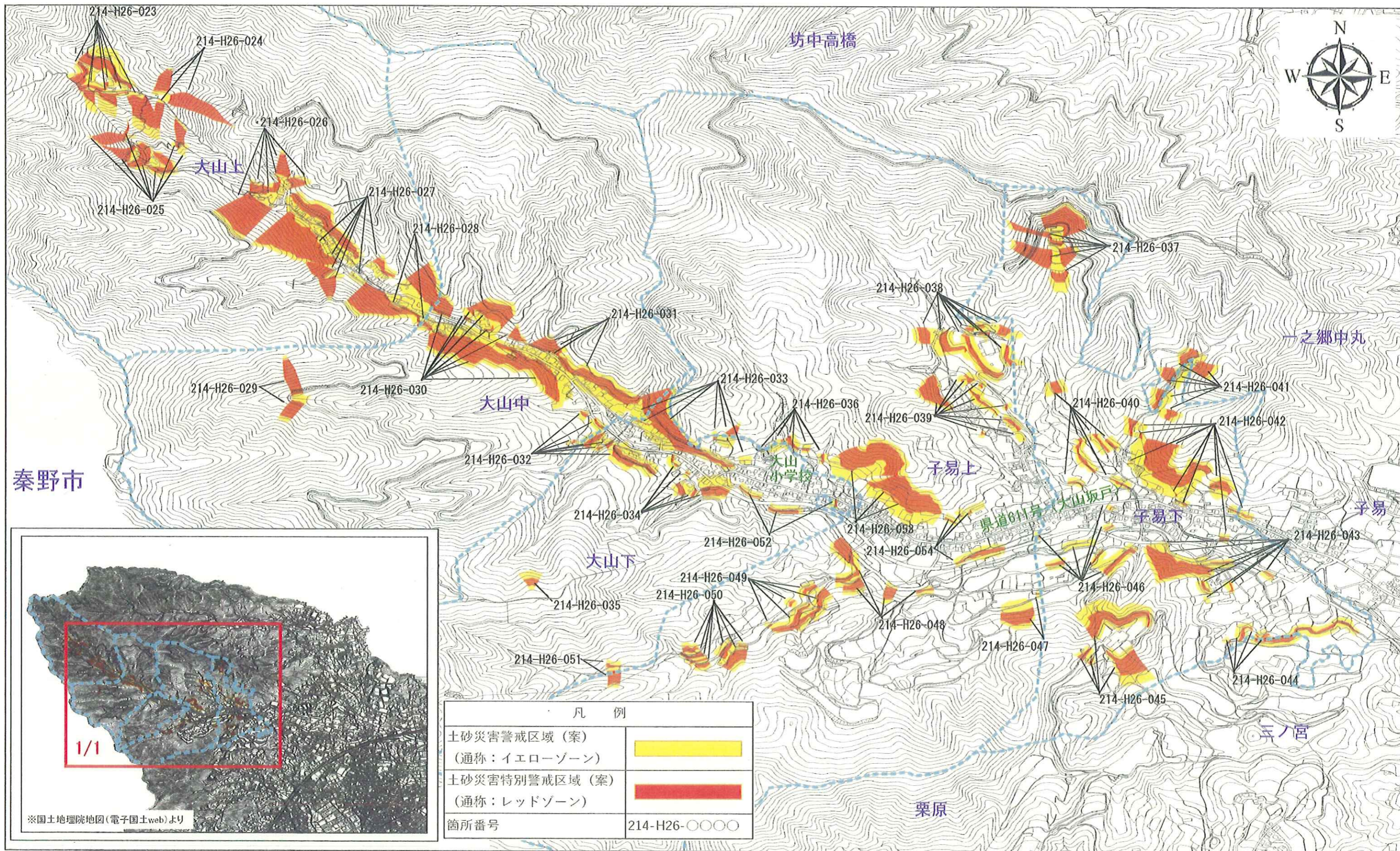
※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 「本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)」

伊勢原南地区 基礎調査結果 区域図 (案) 土砂災害警戒区域等 (1/1)

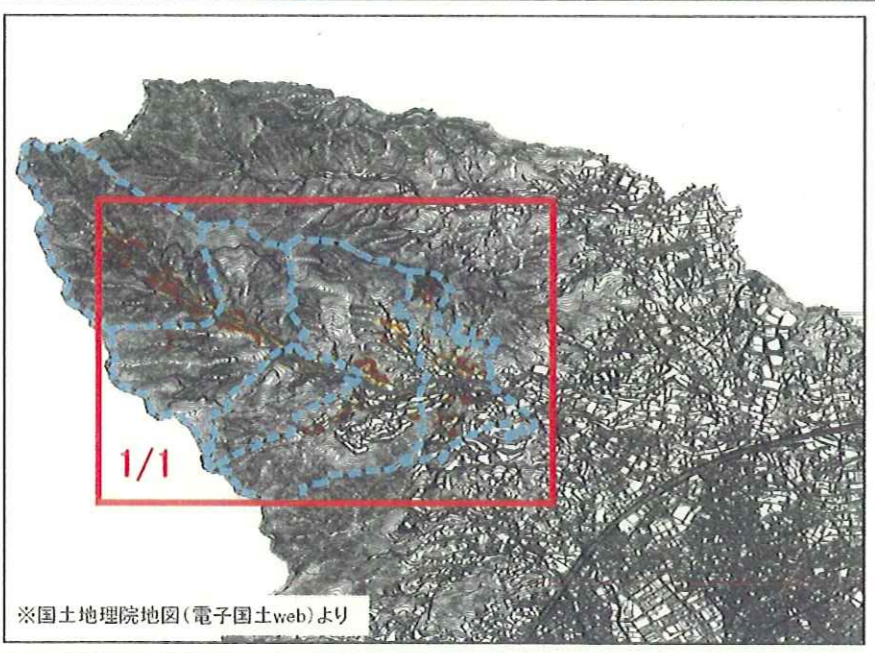


※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)

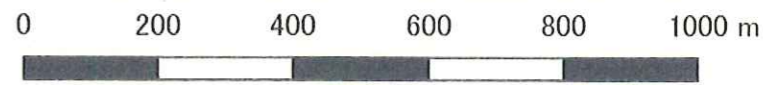
大山地区 基礎調査結果 区域図 (案) 土砂災害警戒区域等 (1/1)



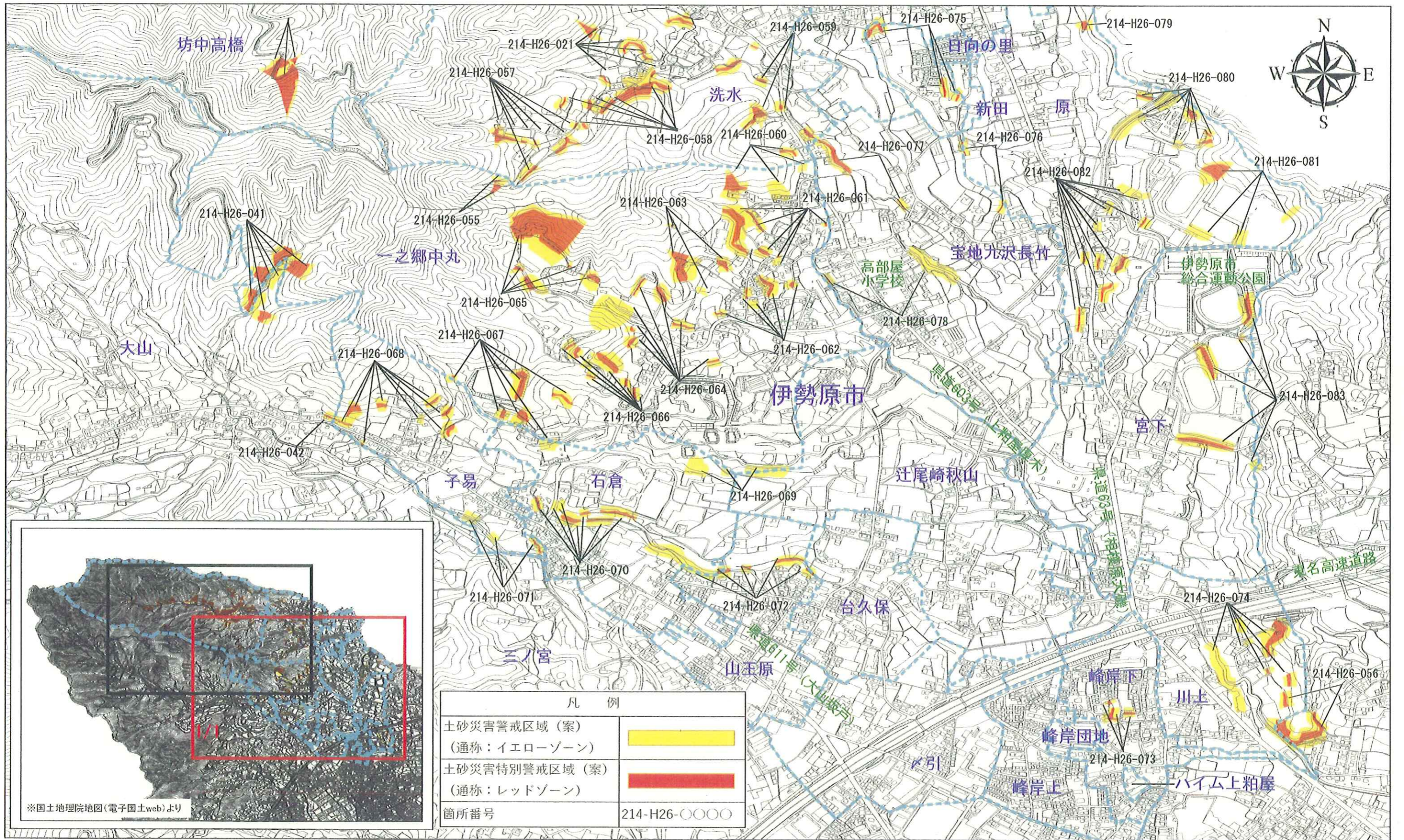
凡 例	
土砂災害警戒区域 (案) (通称：イエローゾーン)	
土砂災害特別警戒区域 (案) (通称：レッドゾーン)	
箇所番号	214-H26-○○○○



※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)



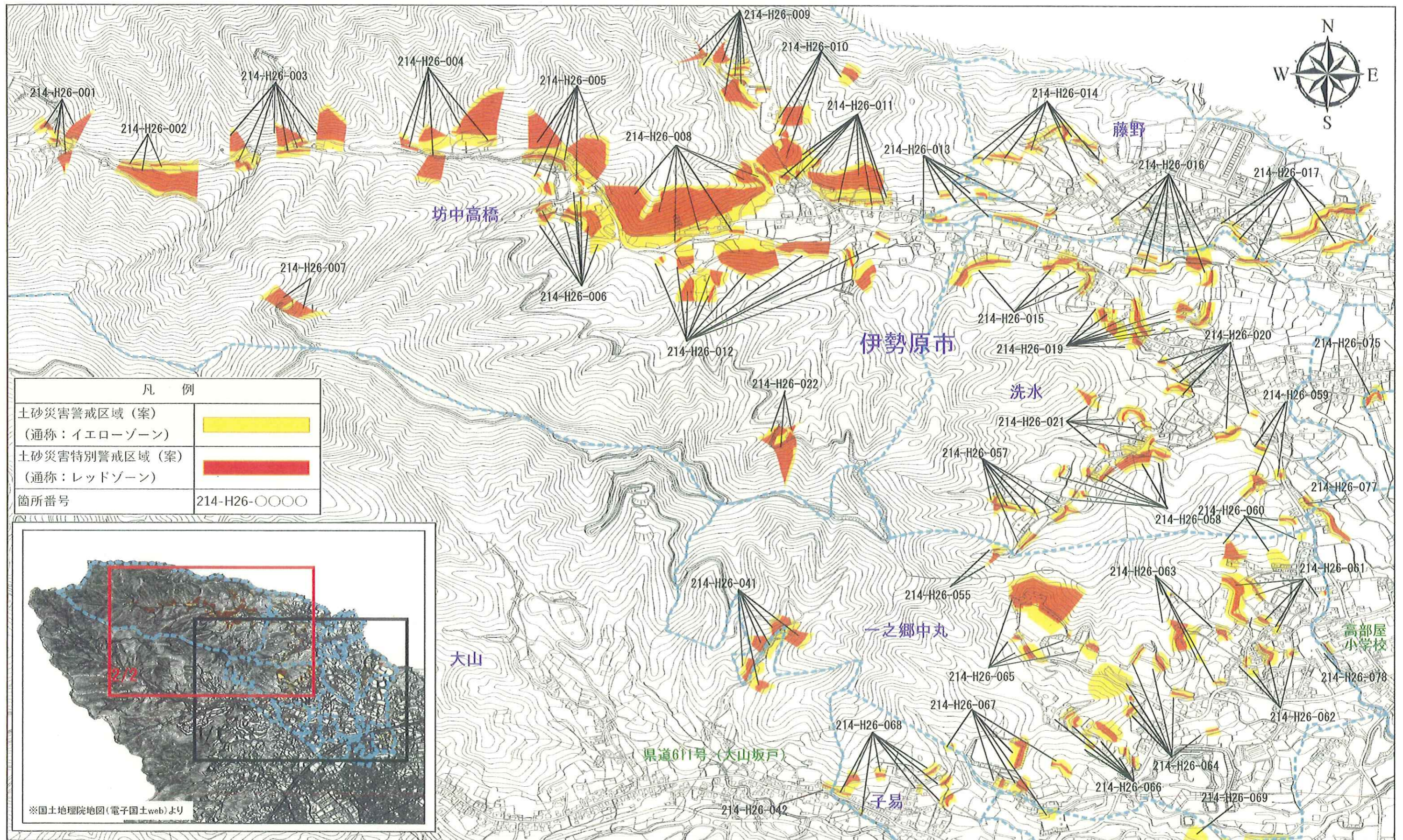
高部屋地区 基礎調査結果 区域図(案) 土砂災害警戒区域等 (1/2)



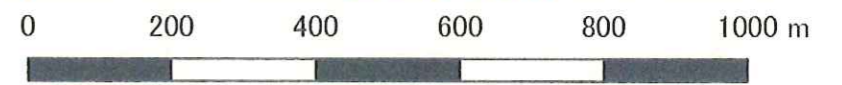
※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)



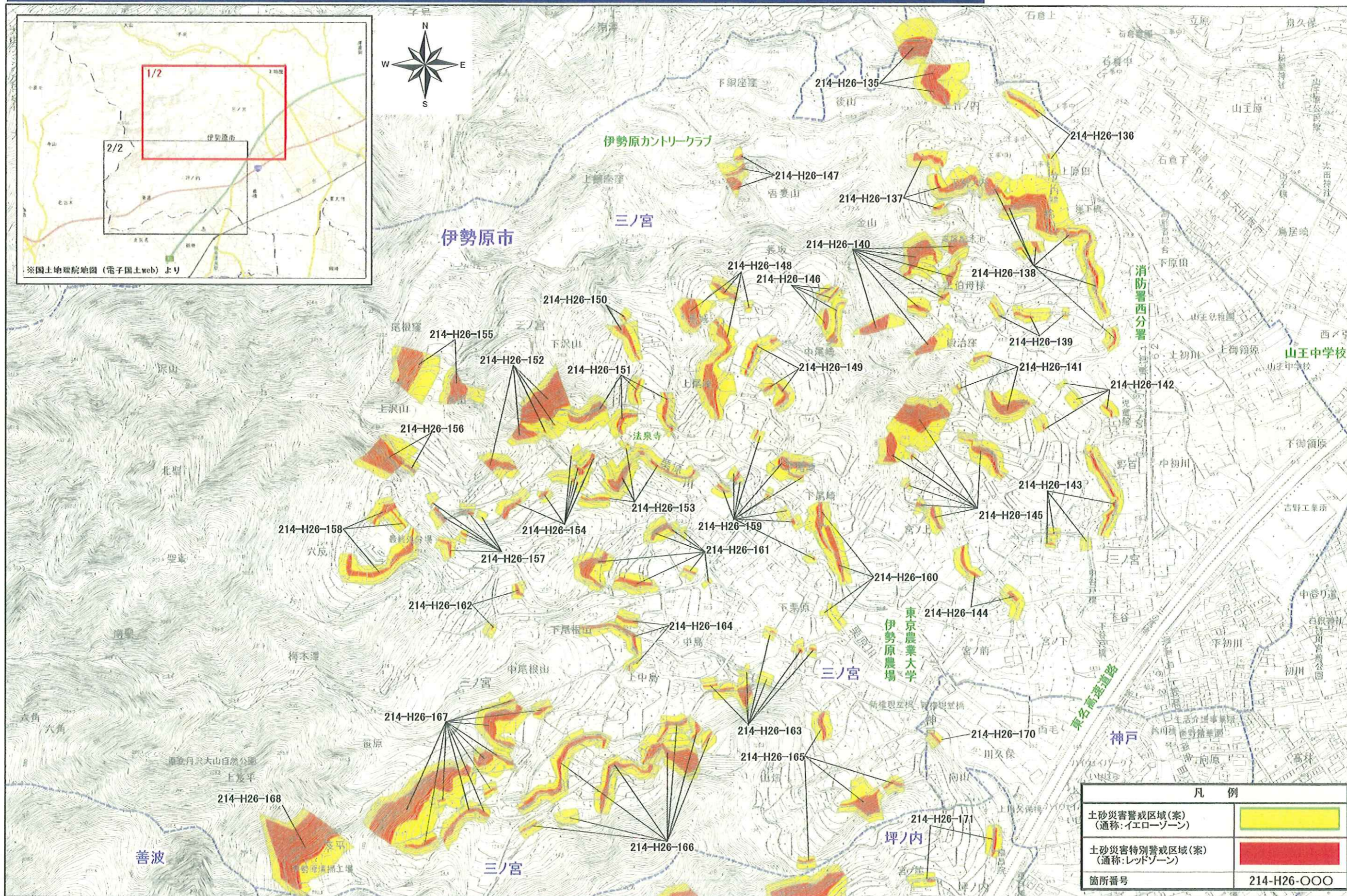
高部屋地区 基礎調査結果 区域図 (案) 土砂災害警戒区域等 (2/2)



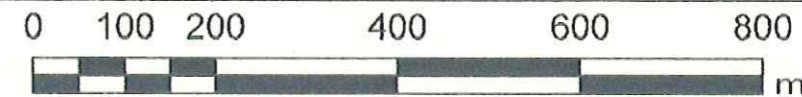
※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)



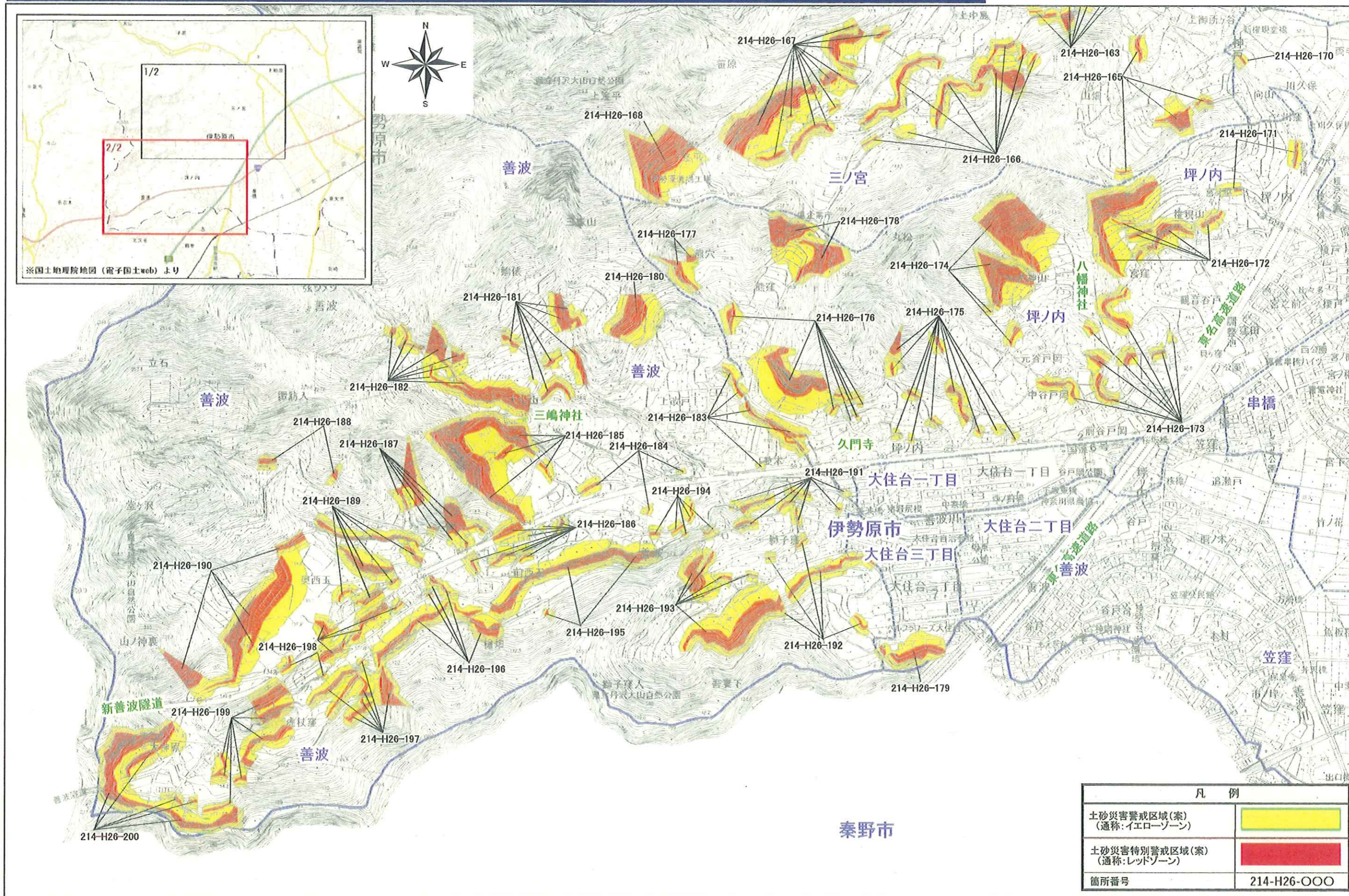
比々多地区 基礎調査結果 区域図(案) 土砂災害警戒区域等 (1/2)



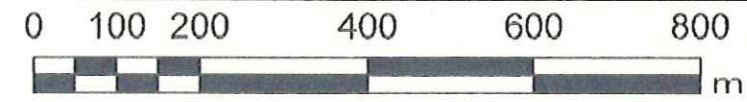
※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)



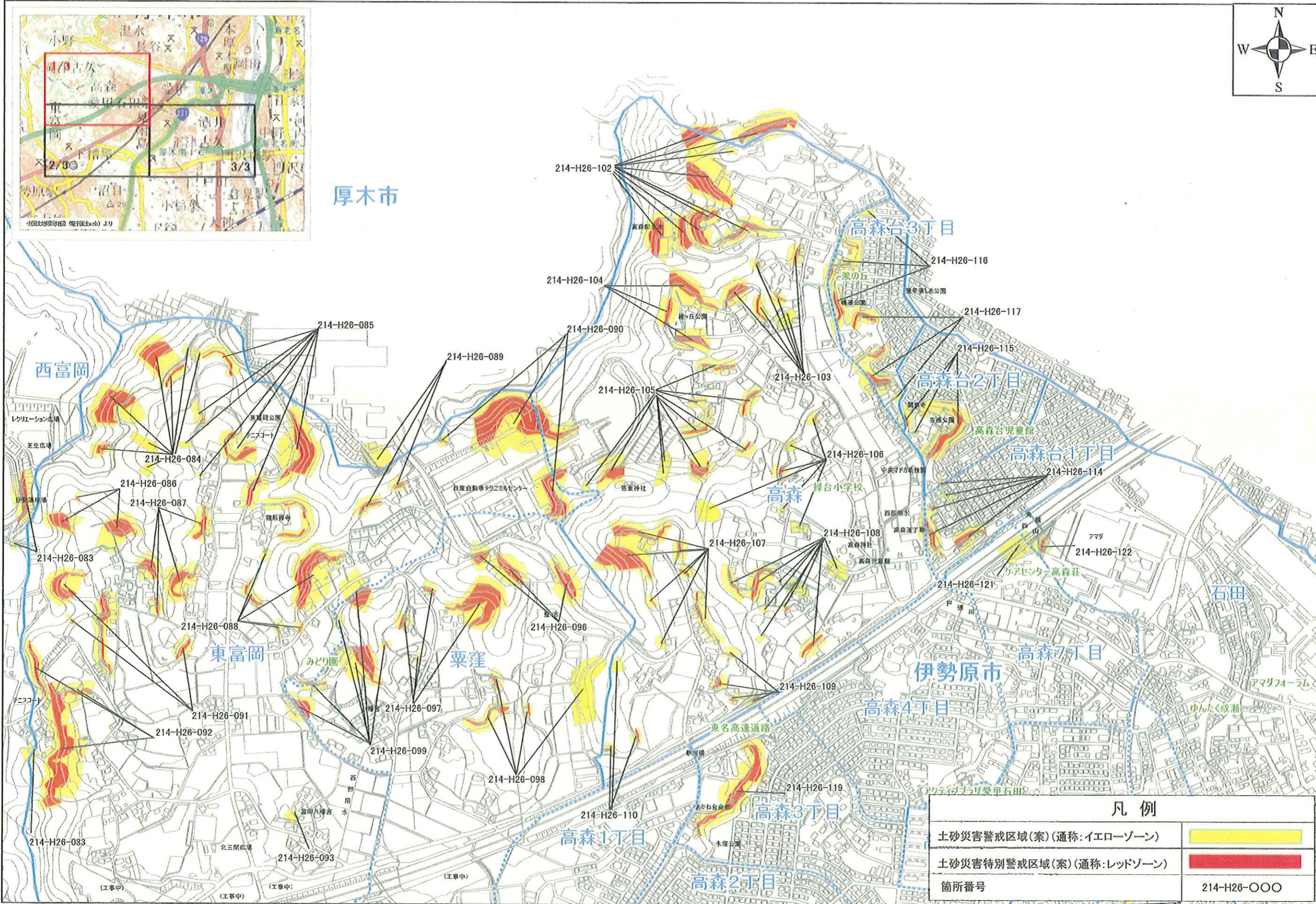
比々多地区 基礎調査結果 区域図 (案) 土砂災害警戒区域等 (2/2)



※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、かけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)

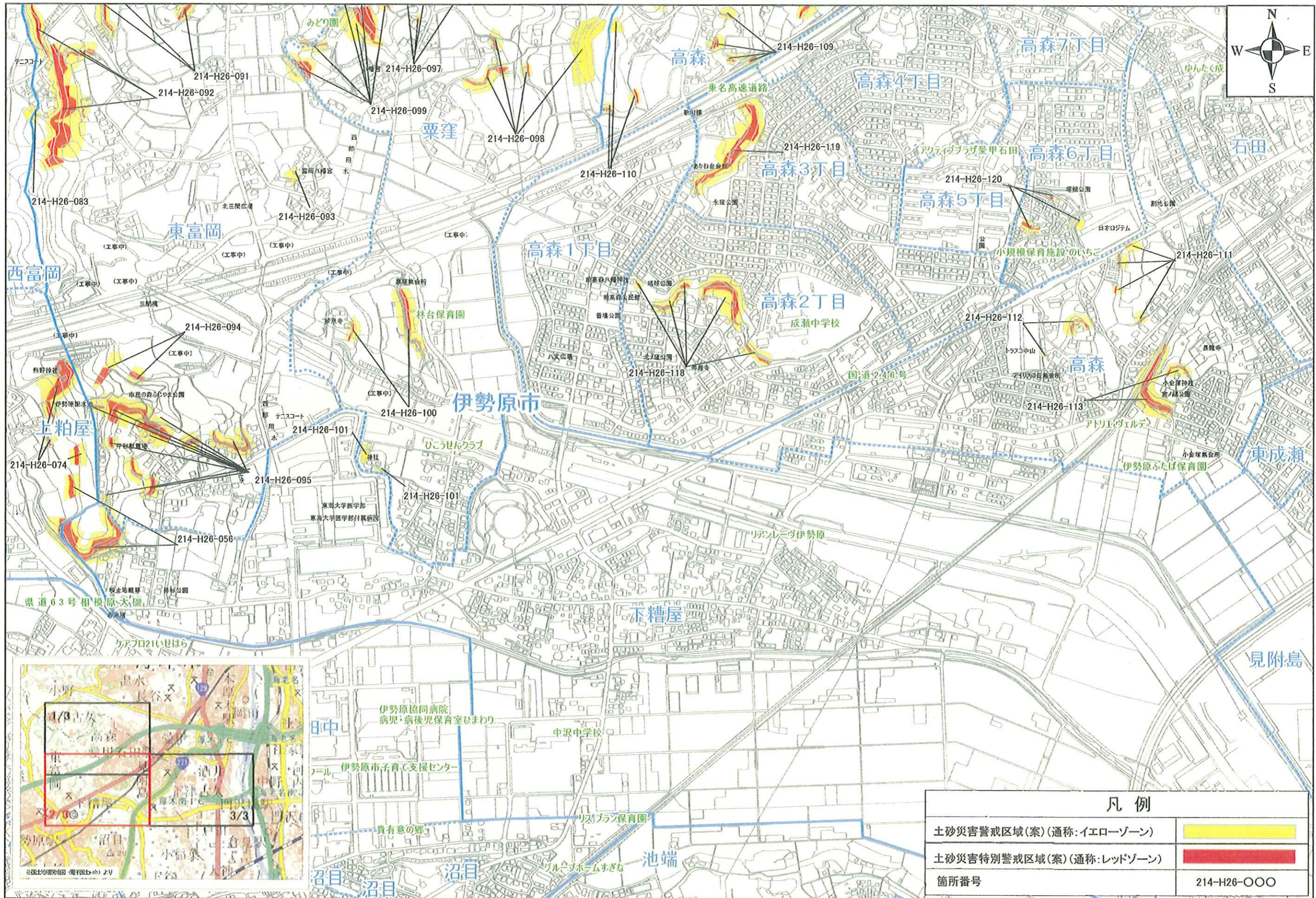


成瀬地区 基礎調査結果 区域図 (案) 土砂災害警戒区域等 (1/3)



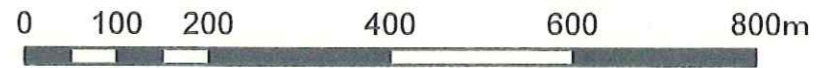
※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 「本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)」

成瀬地区 基礎調査結果 区域図(案) 土砂災害警戒区域等(2/3)

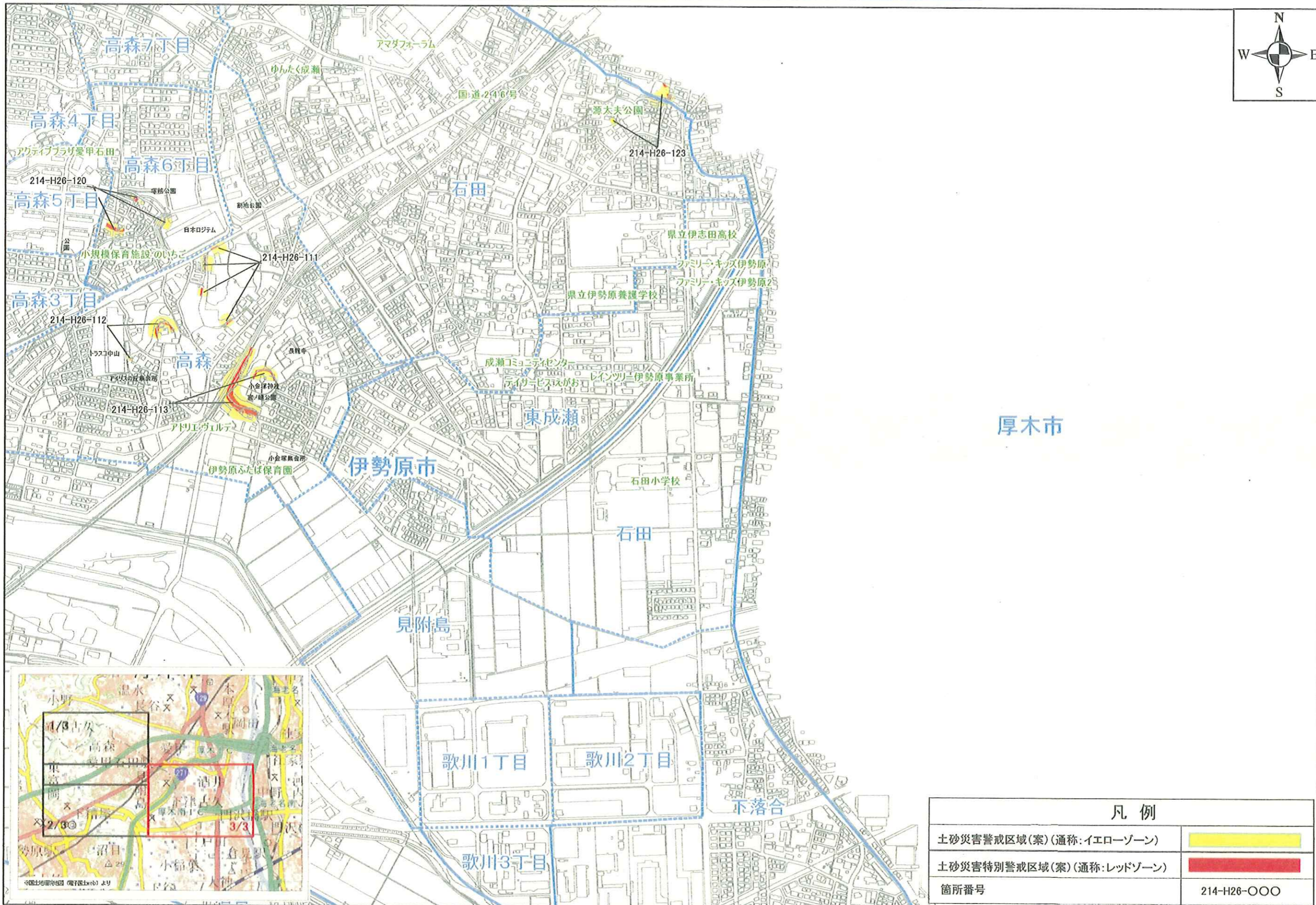


※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 「本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)」

凡例	
土砂災害警戒区域(案)(通称:イエローゾーン)	
土砂災害特別警戒区域(案)(通称:レッドゾーン)	
箇所番号	214-H26-000



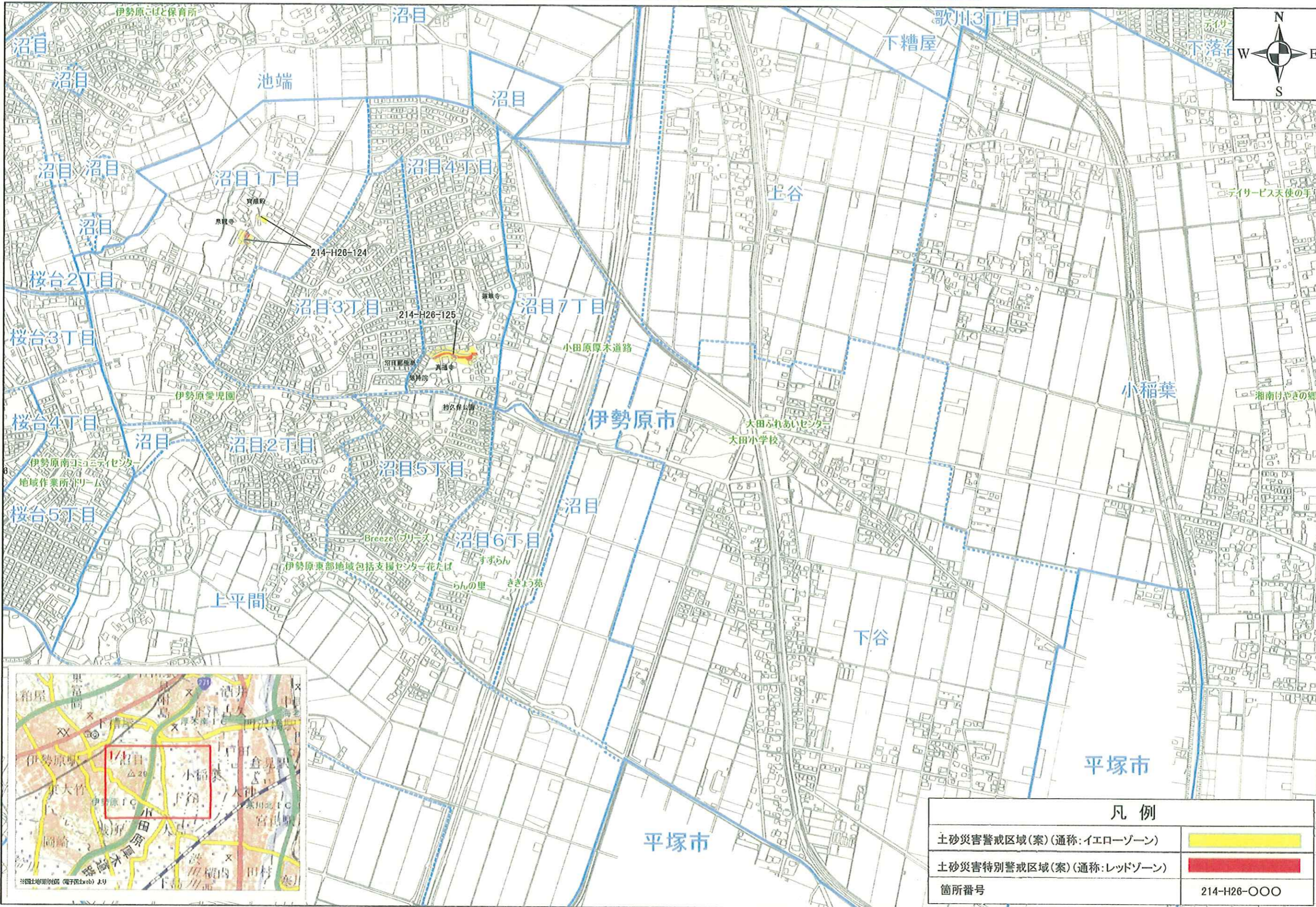
成瀬地区 基礎調査結果 区域図(案) 土砂災害警戒区域等(3/3)



※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 「本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)」

0 100 200 400 600 800m

大田地区 基礎調査結果 区域図 (案) 土砂災害警戒区域等 (1/1)



凡例	
土砂災害警戒区域(案)(通称:イエローゾーン)	
土砂災害特別警戒区域(案)(通称:レッドゾーン)	
箇所番号	214-H26-000



※1 本区域図(案)は、今後法律に則って指定する土砂災害警戒区域等と異なることがあります。
 ※2 本区域図(案)の自然現象の種類は、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)である。
 ※3 「本区域図(案)の背景地図は、伊勢原市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用しています。(伊都政収第258号)」

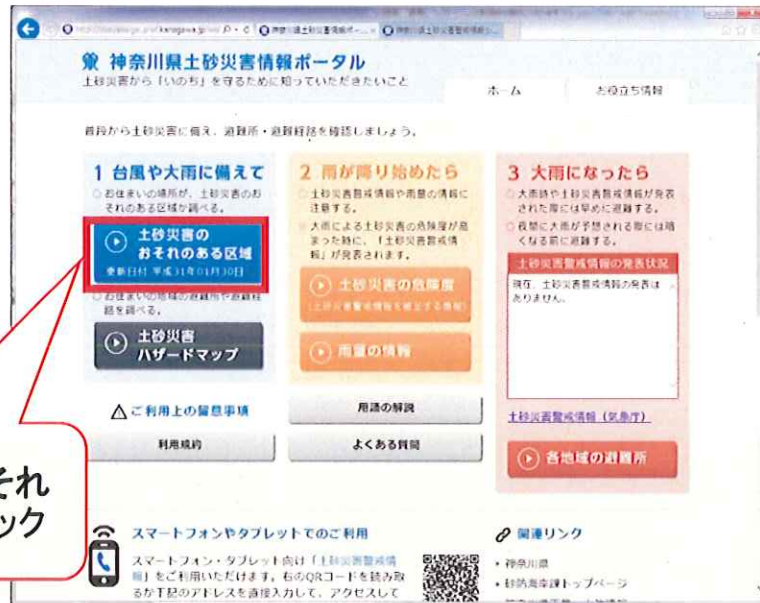
ウェブサイトによる公表した 土砂災害警戒区域等の検索方法

検索サイトを使って「神奈川県土砂災害情報ポータル」で検索

神奈川県土砂災害情報ポータル

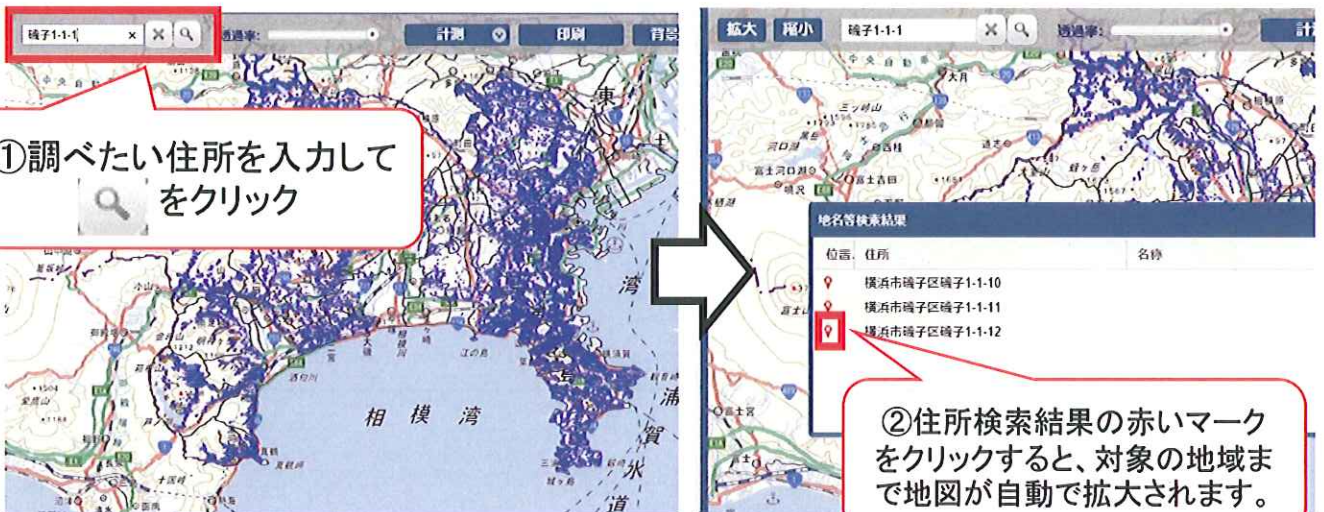
検索

検索結果「神奈川県土砂災害情報ポータル」をクリック



①「土砂災害のおそれのある区域」をクリック

① 調べたい住所を入力して
をクリック

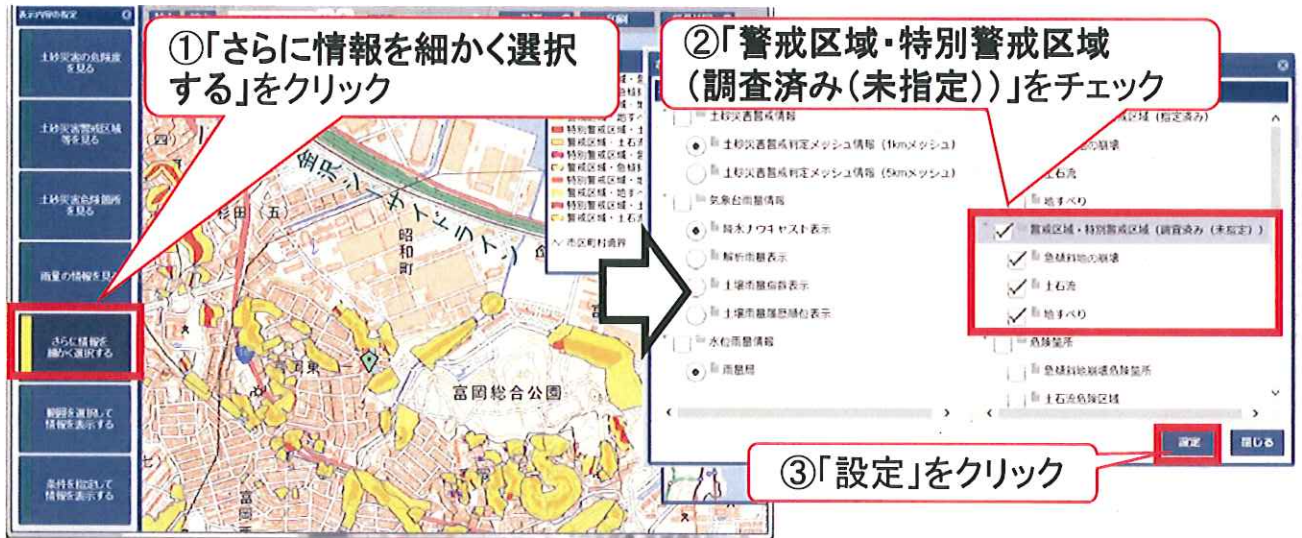


②住所検索結果の赤いマーク
をクリックすると、対象の地域まで
地図が自動で拡大されます。

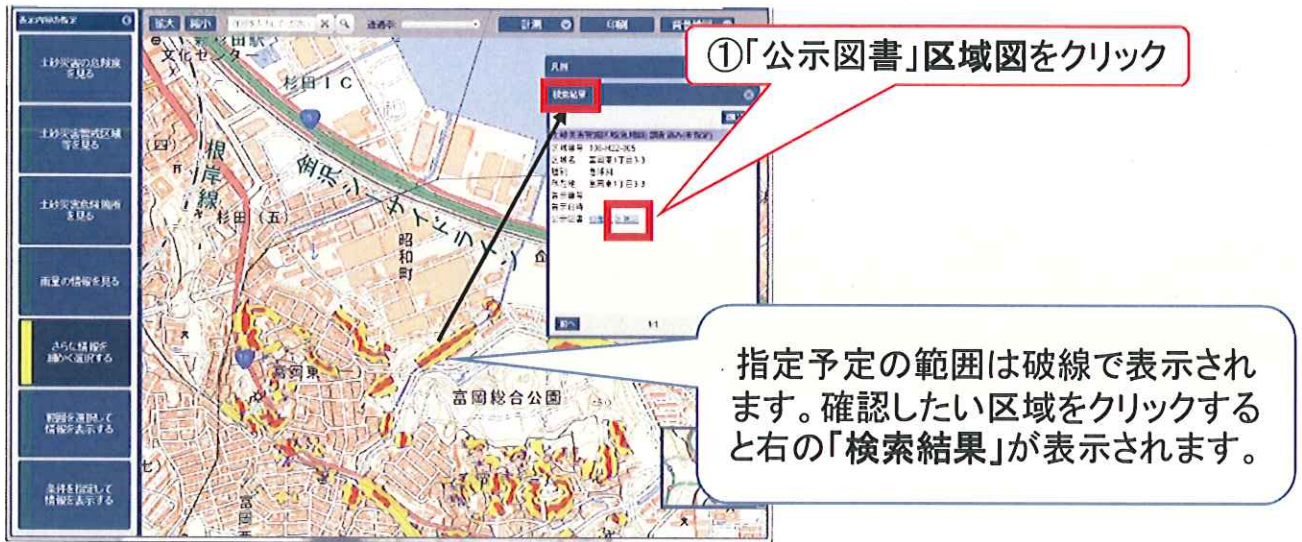
住所検索について

検索システムの精度上、対象住所が該当しない場合がございます。
また、「〇〇1-1-1」で結果が得られない場合、「〇〇1-1」や「〇〇1」のように検索項目を減らして近隣の住所から調べていただきますようお願いいたします。

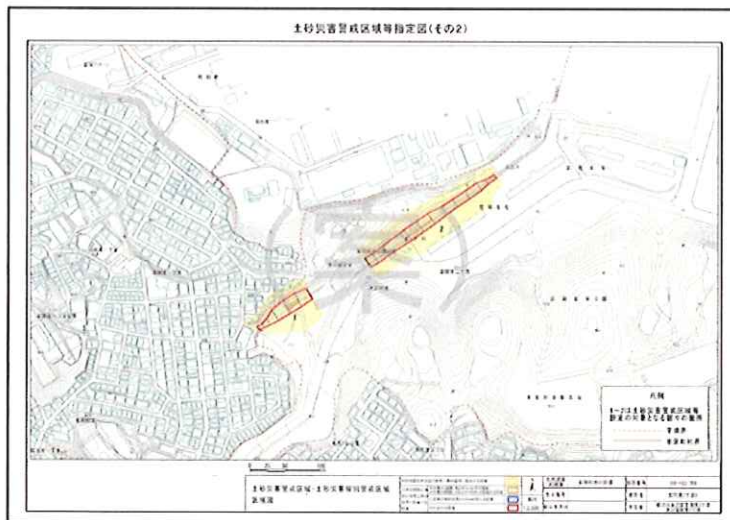
裏面へつづく



「調査済み土砂災害警戒区域等(未指定)」のみが表示される



「区域図(案)」が表示される



【留意事項】
 地図上に表示されている区域は正確な位置を示していない場合がございますので、**必ず区域図(案)でご確認ください。**

【土砂災害情報ポータルに関する問合せ先】
 神奈川県砂防海岸課 045(210)6511



表紙写真：広島県広島市安佐南区八木3丁目上山川



土砂災害防止法

「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」について

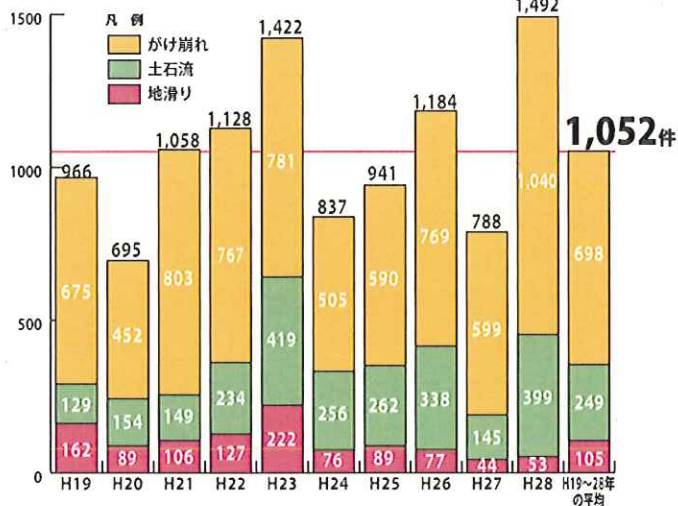
発行：全国地すべりがけ崩れ対策協議会

近年の土砂災害発生状況

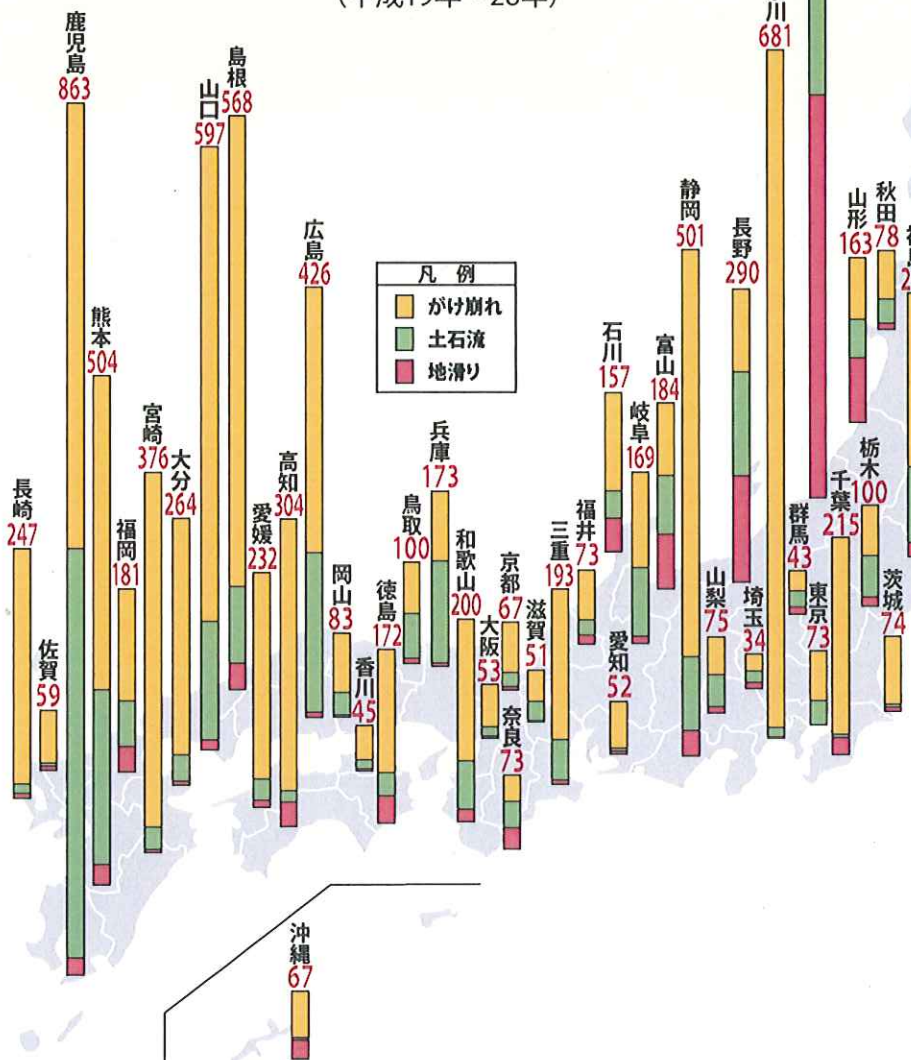
土砂災害は毎年のように全国各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな被害を与えています。

■ 過去10年の土砂災害発生件数 (平成19年～28年)

※小数点以下四捨五入

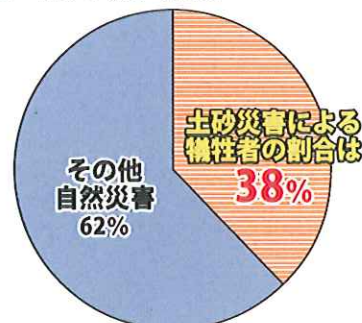


■ 過去10年の都道府県別土砂災害発生状況 (平成19年～28年)



都道府県	がけ崩れ	土石流	地滑り	合計
北海道	129	53	10	192
青森県	51	5	3	59
岩手県	65	196	2	263
宮城県	62	31	10	103
秋田県	48	24	6	78
山形県	61	38	64	163
福島県	172	75	14	261
茨城県	67	3	4	74
栃木県	50	41	9	100
群馬県	20	16	7	43
埼玉県	17	11	6	34
千葉県	195	3	17	215
東京都	49	24	0	73
神奈川県	671	9	1	681
山梨県	37	32	6	75
長野県	82	103	105	290
新潟県	220	154	399	773
富山県	72	58	54	184
石川県	97	27	33	157
岐阜県	94	68	7	169
静岡県	403	73	25	501
愛知県	46	3	3	52
三重県	149	40	4	193
福井県	49	15	9	73
滋賀県	31	19	1	51
京都府	50	14	3	67
大阪府	42	9	2	53
兵庫県	69	101	3	173
奈良県	26	26	21	73
和歌山県	140	48	12	200
鳥取県	51	44	5	100
島根県	466	76	26	568
岡山県	59	22	2	83
広島県	263	158	5	426
山口県	470	117	10	597
徳島県	122	23	27	172
香川県	34	9	2	45
愛媛県	204	21	7	232
高知県	269	11	24	304
福岡県	111	45	25	181
佐賀県	52	3	4	59
長崎県	233	9	5	247
熊本県	311	173	20	504
大分県	234	26	4	264
宮崎県	351	22	3	376
鹿児島県	441	405	17	863
沖縄県	46	2	19	67
合計	6,981	2,485	1,045	10,511

昭和42年～平成28年までの自然災害による死者・行方不明者の内訳



※平成7年兵庫県南部地震および平成23年東北地方太平洋沖地震による死者・行方不明者数は除く
全自然災害については消防庁調べ、土砂災害については国土交通省砂防部調べによる

土砂災害防止法の概要

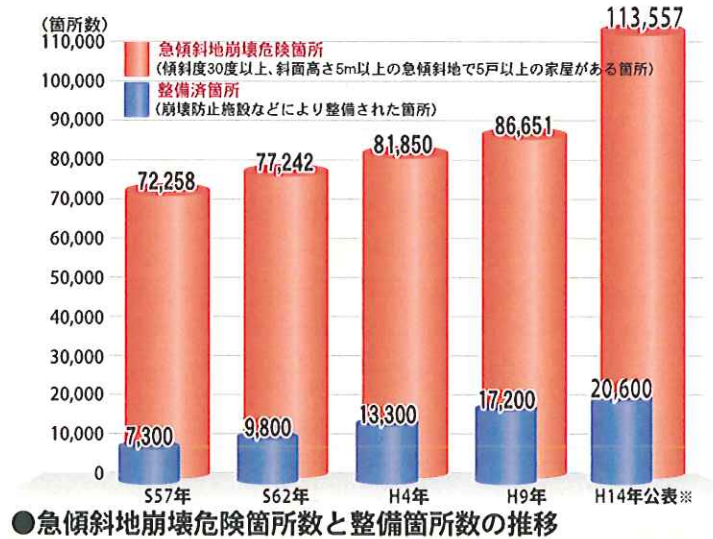
『土砂災害防止法』とは 土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようとするものです。

「土砂災害防止法」制定の背景

土砂災害は毎年のように全国各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな被害を与えています。

また、その一方で、新たな宅地開発が進み、それに伴って土砂災害の発生するおそれのある危険な箇所も年々増加し続けています。そのようなすべての危険な箇所を対策工事により安全な状態にしていくには、膨大な時間と費用が必要となってしまいます。

このような土砂災害から人命を守るため、土砂災害防止工事等のハード対策と併せて、危険性のある区域を明らかにし、その中で警戒避難体制の整備や一定の開発行為の制限等のソフト対策を充実させていくことが大切なのです。



対象となる土砂災害：急傾斜地の崩壊、土石流、地滑り

- ### 土砂災害防止対策基本指針の作成 [国土交通大臣]
- ・土砂災害防止のための対策に関する基本的事項
 - ・基礎調査に関する指針
 - ・土砂災害特別警戒区域等の指定方針
 - ・土砂災害特別警戒区域内の建築物の移転等の方針

- ### 基礎調査の実施 [都道府県]
- ・土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域指定等のための調査
- 基礎調査結果の公表

土砂災害警戒区域の指定 [都道府県知事]

(土砂災害のおそれがある区域)

- 情報伝達、警戒避難体制の整備 [市町村長]
- 警戒避難に関する事項の住民への周知 [市町村長]

- #### 〈警戒避難体制の整備等〉
- ・市町村地域防災計画への記載
 - ・要配慮者利用施設の避難体制
 - ・土砂災害ハザードマップの配布等

土砂災害特別警戒区域の指定 [都道府県知事]

(建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域)

- 特定の開発行為に対する許可制
対象：住宅宅地分譲、社会福祉施設等のための開発行為
- 建築物の構造規制 (都市計画区域外も建築確認の対象)
- 土砂災害時に著しい損壊が生じる建築物に対する移転等の勧告
- 勧告による移転者への融資、資金の確保

- #### 〈建築物の構造規制〉
- ・居室を有する建築物の構造基準の設定 (建築基準法)

- #### 〈移転等の支援〉
- ・住宅金融支援機構の融資
 - ・住宅・建築物安全ストック形成事業による補助

基礎調査の実施・公表

都道府県が、溪流や斜面及びその下流など土砂災害により被害を受けるおそれのある区域の地形、地質、土地利用状況等について調査し、結果を公表します。



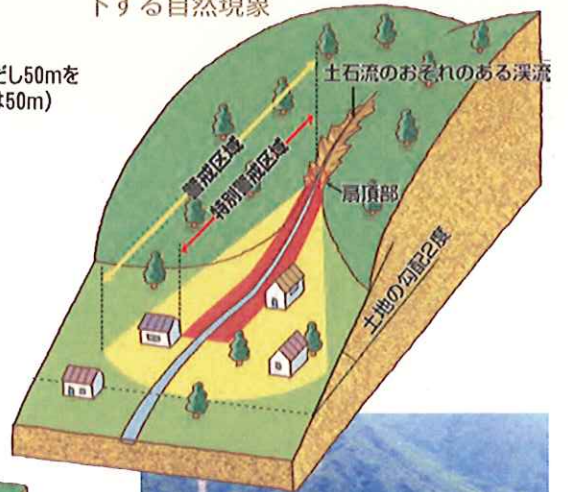
急傾斜地の崩壊

※傾斜度が30度以上である土地が崩壊する自然現象



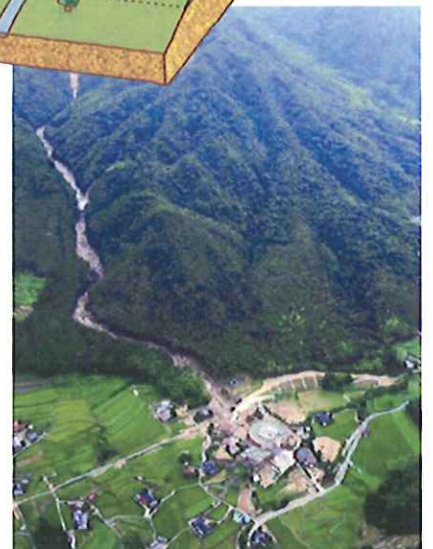
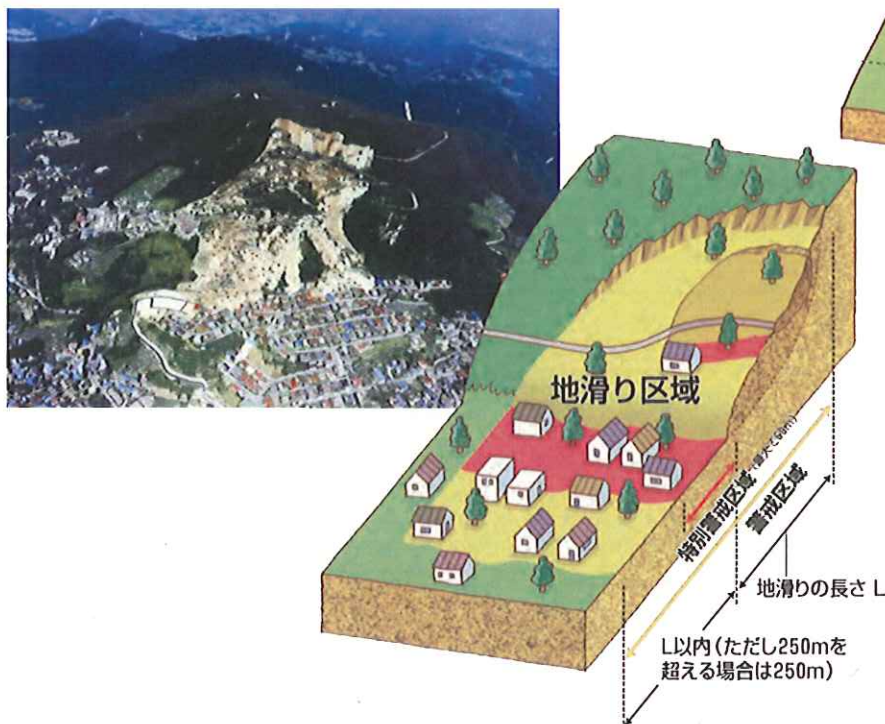
土石流

※山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象



地滑り

※土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象



区域の指定

基礎調査結果の公表後、土砂災害のおそれのある区域等を指定します。

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

■ 急傾斜地の崩壊

- イ 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- ロ 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ハ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍（50mを超える場合は50m）以内の区域

■ 土石流

土石流の発生のおそれのある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

■ 地滑り

- イ 地滑り区域（地滑りしている区域または地滑りするおそれのある区域）
- ロ 地滑り区域下端から、地滑り地塊の長さに相当する距離（250mを超える場合は250m）の範囲内の区域

土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等に伴う土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動等に対して住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれのある損壊を生ずることなく耐えることのできる力の大きさを上回る区域。

※ただし、地滑りに係る土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさについては、作用した時から30分間が経過した時において作用するものとされている。また、地滑りに係る特別警戒区域は地滑り区域の下端から60mの範囲内で指定することとされている。

警戒区域では

特別警戒区域ではさらに

土砂災害警戒区域

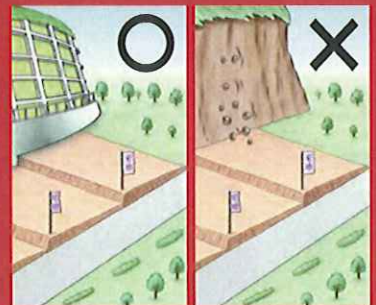
土砂災害のおそれがある区域



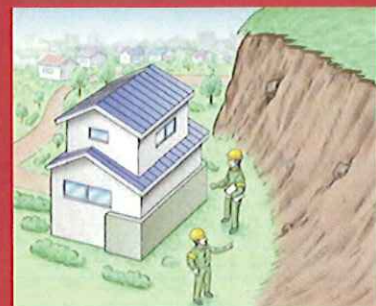
警戒避難体制の整備
土砂災害から生命及び身体を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように警戒避難体制の整備が図られます。
【市町村】

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域



特定の開発行為に対する許可制
住宅用地分譲や要配慮者利用施設の建築のための開発行為は、基準に従ったものに限り許可されます。
【都道府県】



建築物の構造規制
居室を有する建築物は、作用すると想定される衝撃等に対して建築物の構造が安全であるかどうか建築確認がされます。
【建築主事を置く地下公共団体等】



建築物の移転勧告
土砂災害時に損壊が生じ、住民等に著しい危害が生ずるおそれのある建築物の所有者等に対し、移転等の勧告が図られます。
【都道府県】

土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

1. 市町村地域防災計画への記載

土砂災害を防止・軽減するためには、土砂災害が生ずるおそれのある区域において土砂災害に関する情報の収集・伝達、予警報の発令及び伝達、避難、救助等の警戒避難体制を確立しておくことが大切です。このため、土砂災害に関する警戒避難体制について、その中心的役割を担うことが期待される市町村防災会議が策定する市町村地域防災計画において、警戒区域ごとに警戒避難体制に関する事項を定めることとされています。

2. 要配慮者利用施設における警戒避難体制

警戒区域内の要配慮者利用施設（社会福祉施設、学校、医療施設その他の主として防災上の配慮を要する者が利用する施設）であって、要配慮者の円滑かつ迅速な避難を確保する必要がある場合には、市町村地域防災計画に要配慮者利用施設の名称及び所在地を記載するとともに、土砂災害に関する情報等の伝達方法を定めることとされています。

また、警戒区域内の市町村地域防災計画に位置付けられた要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画を作成し、その計画に基づいて避難訓練を実施することが義務づけられています。

3. 土砂災害ハザードマップによる周知の徹底

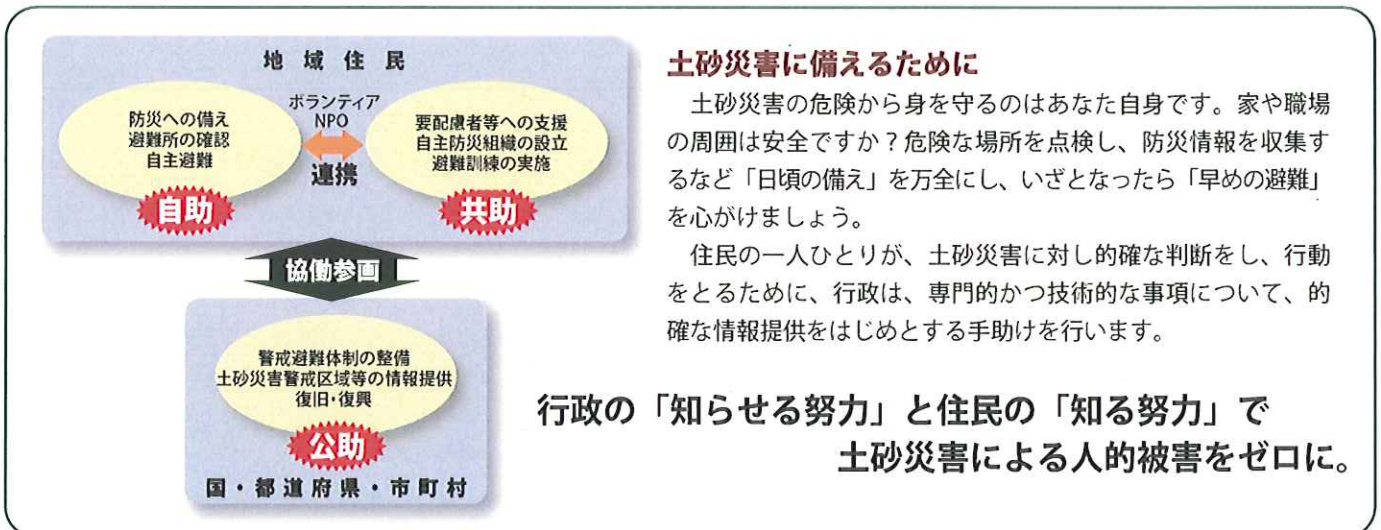
土砂災害による人的被害を防止するためには、住居や利用する施設の存する土地が土砂災害の危険性がある地域かどうか、緊急時にはどのような避難を行うべきか、といった情報が住民等に正しく伝達されていることが大切です。このため、市町村長は市町村地域防災計画に基づいて区域ごとの特色を踏まえた土砂災害に関する情報の伝達方法、土砂災害のおそれがある場合の避難地に関する事項及び円滑な警戒避難に必要な情報を住民に周知させるため、これらの事項を記載した印刷物（ハザードマップ等）を配布し、その他必要な措置を講じることが義務づけられています。

〇〇市〇〇町〇〇地区 土砂災害ハザードマップ



4. 宅地建物取引における措置

警戒区域では、宅地建物取引業者は、当該宅地又は建物の売買等にあたり、警戒区域内である旨について重要事項説明を行うことが義務づけられています。



土砂災害特別警戒区域

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

1. 特定の開発行為に対する許可制

特別警戒区域では、住宅・宅地分譲等や特に防災上の配慮を要する者が利用する社会福祉施設、学校及び医療施設の建築のための開発行為については、土砂災害を防止するために自ら施行しようとする対策工事の計画が、安全を確保するために必要な技術的基準に従っているものと都道府県知事が判断した場合に限って許可されることになります。

2. 建築物の構造の規制

特別警戒区域では、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある建築物の損壊を防ぐために、急傾斜地の崩壊に伴う土石等が建築物に及ぼす力に対して、建築物の構造が安全なものとなるように、居室を有する建築物については建築確認の制度及び構造規制が適用される場合があります。すなわち区域内の建築物の建築等に着手する前に、建築物の構造が土砂災害を防止・軽減するための基準を満たすものとなっているかについて、確認の申請書を提出し、建築主事又は指定検査確認機関の確認を受けることが必要になります。

3. 建築物の移転等の勧告及び支援措置

急傾斜地の崩壊等が発生した場合にその住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれのある建築物の所有者、管理者又は占有者に対し、特別警戒区域から安全な区域に移転する等の土砂災害の防止・軽減のための措置について都道府県知事が勧告することができることになっています。

特別警戒区域内の施設整備にかかる防災工事や区域外への移転等に対しては、以下のような支援措置があります。

①住宅金融支援機構の融資

地すべり等関連住宅融資は、特別警戒区域からの移転勧告に基づく家屋の移転、代替住宅の建設、土地の取得等に必要な資金の融資を受けられます。（融資金利の優遇措置有）

②住宅・建築物安全ストック形成事業による補助

特別警戒区域にある構造基準に適合していない住宅（既存不適合住宅）を特別警戒区域から移転し、代替家屋の建設を行う者に対し、危険住宅の除去等に要する費用及び危険住宅に代わる住宅の建設に要する費用の一部が補助されます。

また、特別警戒区域内の既存建築物の土砂災害に対する建築物の安全性の向上を目的とした改修への補助制度を実施している自治体もあります。

4. 宅地建物取引における措置

特別警戒区域では、宅地建物取引業者は、特定の開発行為において、都道府県知事の許可を受けた後でなければ当該宅地の広告、売買契約の締結が行えず、当該宅地又は建物の売買等にあたり、特定の開発行為の制限に関する事項の概要について重要事項説明を行うことが義務づけられています。

土砂災害防止法のおゆみ



◆平成11年

- 6月29日 「広島災害」(土砂災害発生件数325件、死者24名)
- 7月 8日 建設省防災国土管理推進本部を開催。
「総合的な土砂災害対策に関するプロジェクトチーム」の設置を決定

◆平成12年

- 2月 4日 河川審議会答申「総合的な土砂災害対策のための法制度のあり方について」
- 3月14日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律案」閣議決定
- 4月26日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律案」に対する
附帯決議可決
- 5月 8日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」公布(平成12年法律第57号)

◆平成13年

- 3月28日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律施行令」公布(平成13年政令第84号)
「建築基準法施行令の一部を改正する政令」公布(平成13年政令第85号)
- 3月30日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律施行規則」公布(平成13年国土交通省令第71号)
- 4月 1日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」施行
- 7月 9日 「土砂災害防止対策基本指針」制定(平成13年国土交通省告示第1119号)

◆平成15年

- 3月31日 広島県において、全国初の土砂災害警戒区域等の指定を実施(13箇所)

◆平成17年

- 5月 2日 「水防法及び土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」公布(平成17年法律第37号)
- 6月 1日 「水防法施行規則及び土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律施行規則の一部を改正する省令」公布
(平成17年国土交通省令第62号)
- 7月 1日 「水防法及び土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」施行

◆平成18年

- 9月25日 「土砂災害防止対策基本指針」変更(平成18年国土交通省告示第1131号)

◆平成22年

- 11月25日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」公布(平成22年法律第52号)

◆平成23年

- 1月28日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律施行令の一部を改正する政令」公布
(平成23年政令第10号)
- 4月28日 「土砂災害防止対策基本指針」変更(平成23年国土交通省告示第439号)
- 5月 1日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」施行
大規模土砂災害に対する危機管理体制の強化
「緊急調査」及び「土砂災害緊急情報」について

◆平成26年

- 8月20日 「広島災害」(土砂災害発生件数166件、死者77名(災害関連死含む))
- 11月19日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」公布(平成26年法律第109号)

◆平成27年

- 1月15日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整理に関する政令」公布(平成27年政令第6号)
- 1月16日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う国土交通省関係省令の整備に関する省令」公布(平成27年国土交通省令第2号)
「土砂災害防止対策基本指針」変更(平成27年国土交通省告示第35号)
- 1月18日 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」施行
基礎調査の結果の公表義務付け、土砂災害警戒区域における警戒避難体制の充実・強化等

◆平成28年

- 8月 「台風10号による社会福祉施設の浸水被害(岩手県)」(死者9名)

◆平成29年

- 3月31日 土砂災害警戒区域等指定箇所数(全都道府県487,899箇所)
- 5月19日 「水防法等*の一部を改正する法律」公布(平成29年法律第31号)
- 6月14日 「水防法等*の一部を改正する法律の施行に伴う国土交通省関係省令の整備に関する省令」公布(平成29年国土交通省令第36号)
- 6月19日 「水防法等*の一部を改正する法律」施行
警戒区域内の要配慮者利用施設の避難確保計画の作成および避難訓練の実施の義務付け
※土砂災害防止法を含む
- 8月10日 「土砂災害防止対策基本指針」変更(平成29年国土交通省告示第752号)